



# 全苗連だより

Vol. 18 (1月号)

平成28年1月15日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

## 平成28年度林野庁予算案の概要

「次世代林業基盤づくり交付金」でコンテナ苗生産施設の整備など幅広く助成

政府は12月24日の閣議で、平成28年度予算案を決定しました。林野庁関係予算は総額2,933億円となっており、林業の成長産業化・森林吸収源対策の推進を重点事項としております。また、12月18日の閣議ではTPP(環太平洋経済連携協定)関連対策として、林野庁関係では、592億円の補正予算を決定しました。

平成28年度当初予算の目玉となっている「次世代林業基盤づくり交付金」は、これまで補正予算で措置された「森林整備加速化・林業再生基金」の当初予算版という性格を持ち、補助メニューも拡充されており、大臣折衝の末61億円の予算額が認められました。

苗木に関する主な事業としては

### 【次世代林業基盤づくり交付金】のうち、[2 森林・林業再生基盤づくり交付金]のうち

#### 『次世代苗木生産システムの構築』(6,141百万円の内数)

コンテナ苗を低コストで大量に供給する苗木生産施設等の整備を支援するもので、補助対象は、育苗機械、育苗促進施設(ビニールハウス、収納台、散水装置など)、資材費(コンテナ容器、培地、肥料)となっており、都道府県を通じて、2分の1が助成されます。

#### 【苗木安定供給推進事業(拡充)】(164百万円)

##### (1) 花粉発生源対策採種園の整備等

花粉症対策品種等の苗木の生産を目的とした採種園等の造成・改良、採種園の再活用、造林地における穂木採取のための整備、都道府県が行う人工交配に関する技術研修を支援します。

##### (2) コンテナ苗需給拡大

花粉症対策品種等のコンテナ苗を活用した伐採から再造林までの一貫作業システム普及のための協議会の設置・運営等を支援します。

##### (3) 花粉症対策苗木の供給拡大

優良種苗の供給拡大のために、全国各地で苗木生産者を対象として行うコンテナ苗生産の技術研修、巡回指導を支援します。

この事業は、予算成立後に、林野庁は「公募要領」を定めて、事業実施主体を公募する予定です。全苗連は、この事業に応募し、平成27年度の「花粉症対策苗木の供給拡大事業」と同様に各都道府県苗組の希望を聞いて実施してまいりたいと考えています。

##### (4) 花粉症対策苗木への植替えの促進

花粉発生源となっているスギ林において花粉症対策苗木への植替えを促進するため、スギの加工業者等が行う森林所有者への働きかけを支援します。

## 「技術情報」

### ヒノキ実生コンテナ苗を活用した植栽試験における苗木の活着と成長

◇◇ 森林総合研究所関西支所と近畿中国森林管理局森林技術・支援センターの共同研究から ◇◇

森林総合研究所関西支所と近畿中国森林管理局技術・支援センターは共同で、岡山県の国有林において、季節別(夏・秋・春)に植栽されたコンテナ苗と普通苗の活着・成長を調査し、現地検討会を開催するとともに、日本森林学会等に発表しておりますので、その概要を紹介します。

植栽試験地は、新見市内の国有林で、三光山試験地は上木を伐採後3年が経過しており、三室試験地は一貫作業により伐採後すぐ植栽する所で実施しております。苗木は、ヒノキ実生の2年生コンテナ苗(150cc)と普通苗、ヒノキ挿木のセラミック苗の3種類で、夏季は平成25年8月下旬、秋季は平成25年10月下旬、春季は平成26年5月上旬、コンテナ苗とセラミック苗は専用の植栽器具(ディブル)、普通苗は鍬を使い植栽しております。

#### <活着調査>

植栽季節ごとに植栽後約2ヶ月経過した時点で、1個体ごとに葉変色や枯損状態を調査しました。

- ① コンテナ苗は、三光山試験地、三室試験地ともに、いずれの植栽季節でもみても65%~95%の個体が健全かほぼ健全で、セラミック苗、普通苗に比べて活着は良好であった。
- ② コンテナ苗では、枯死又は半分以上の葉の枯損、萎縮のある個体は特に夏植栽では5%以下で少なく、一方普通苗では、20%以上の枯死個体が見られ、夏季における活着に差が出た。
- ③ 普通苗では、夏季及び秋季での活着率が低く、春植栽での活着率が最も高く、セラミック苗では、夏植栽の活着率が最も高く、この点でも傾向に差が出た。

#### <成長調査>

全ての植栽季節の苗木を対象として、樹高と地際直径を平成26年10月に調査しました。

- ① 植付時の地際直径は、普通苗の方がコンテナ苗より大きく、成長後もそのまま推移していた。植付時の直径は植栽季節毎に異なっていたが、傾向そのものは、植栽季節間での違いが無く共通であった。セラミック苗は直径が最も小さく、また成長量も小さかった。
- ② 樹高はコンテナ苗の方が若干普通苗に比べて大きく、直径同様に一成長期後の関係にも違いは無かった。コンテナ苗では植付時の樹高には季節間での差は少なかったが、成長量は夏季植栽>秋季植栽>春季植栽の順に小さくなっており、植栽季節により異なっていた。セラミック苗はここでも成長量が最も小さかった。
- ③ 形状比はいずれの苗木種、植栽季節でも一成長期後に小さくなっており、植栽1年目では、直径成長に重点する傾向がみられた。

### 全苗連・苗組の行事予定

- 1月18日~19日 コンテナ苗木生産技術研修会(宮城県松島町ほか)
- 1月29日 「全苗連生産者の集い」第2回幹事会(静岡県庁別館会議室)
- 2月4日 関東地区林業用種苗需給調整協議会(栃木県庁大会議室)
- 2月5日 林木育種成果発表会(新木場・木材会館)
- 2月19日 日本林業経営者協会講演会(東京・山会堂ビル)

5月12日（会場仮予約） 全苗連理事会

5月27日（会場仮予約） 全苗連平成28年度通常総会

